



大腸がんと診断されたら

担当医と話し合っ、治療法を決めます



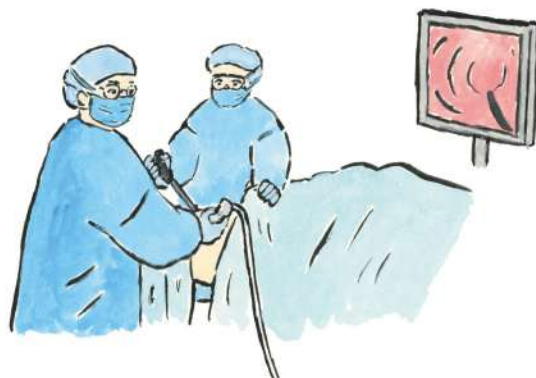
まずは担当医からよく話を聞き、その上でよく話し合うことが大切です。一般的に、早期発見なら治療は軽く、入院も短く、働いている人は早く職場に復帰できます。治療費の負担も軽減できます。一方、進行がんはこれらの負担が大きくなり、命にかかわることもあります。

治療の選択には医学的な面だけでなく、仕事や家族、人生観もかかわります。迷った時は担当医に遠慮せず、他の専門医にも相談する「セカンドオピニオン」という方法や、がんに関する相談窓口を利用することも重要です。



大腸がんには、様々な治療法があります

治療は、標準治療(科学的根拠に基づき、現在利用できる最良の治療)を基本として本人の希望や生活環境、年齢を含めた体の状態などを総合的に検討し、担当医と話し合って決めます。



内視鏡治療 内視鏡を使って、がんを切除する方法です。がんがリンパ節に転移している可能性がほとんどなく、技術的に切除できる大きさや部位にあり、粘膜下層への広がり が軽度(1mmまで)にとどまっている場合に適用されます。開腹手術と比べて体の負担が少なく、安全ですが、出血や穿孔(穴が開く)が起こる場合もあります。切除したがんを検査し、がんのタイプや広がりなどを確認します。再発やリンパ節転移の危険性があると判明した場合、後日追加の手術が必要になることがあります。

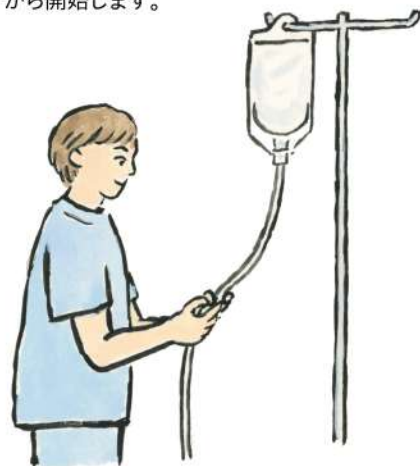
外科治療(手術) 内視鏡治療が難しい場合、手術を行います。がんの部分だけでなく、がんが広がっている可能性のある腸管とリンパ節も切除します。腸管を切除した後、残った腸管をつなぎ合わせることができない場合、人工

肛門(ストーマ:肛門のかわりとなる便の出口)をお腹に作ります。手術法としては、従来の開腹手術の他に、二酸化炭素でお腹を膨らませ、お腹に開けた穴から内視鏡(腹腔鏡)を挿入して観察しながら手術を行う腹腔鏡下手術が広く行われます。開腹手術に比べてお腹の傷が小さく、術後の痛みが少なく、回復が早い一方、手術時間が長くなりやすいです。また、内視鏡と関節のあるロボットアームで手術を行うロボット支援下手術もあります。腹腔鏡下手術より繊細な手術ができると期待されています。

薬物療法 術後の再発を防ぐための「補助化学療法」と、手術で完全な切除が難しく、症状緩和のための「切除不能進行・再発大腸がんに対する薬物療法」があります。患者と担当医が話し合って使う薬を決めます。

放射線治療 手術のように臓器を切り取ることはなく、がんの部分に放射線をあてて治療します。エックス線と同様に、痛みや熱を感じることはありません。対象は主に直腸がんになります。

緩和医療 がんに伴う精神的、肉体的な苦痛をやわらげる目的で、がんと診断されたときから開始します。





がんに関する相談窓口

ひとりではありません、さまざまな相談窓口があります

がんになると、治療や副作用のこと、お金や仕事のこと、毎日の暮らしのこと、人間関係のこと、がんとの向き合い方やこれからどう生きていくかなど、さまざまな悩みや心配事が出てきます。誰かに気持ちを聞いてもらいたい時、不安で仕方がない時もあるでしょう。そんな時は相談窓口を利用することができます。

全国どこにいても質の高いがん医療を受けることができるよう国が指定した「がん診療連携拠点病院」には、患者や家族はもちろん、だれでも無料で利用できる「がん相談支援センター」があります。看護師、ソーシャルワーカー、心理士らが相談員となり、対面や電話で対応します。

正しい情報を
集めましょう



インターネットや書籍などには、信頼できる医療情報がある一方、効果が科学的に証明されていない治療に関する情報も多くあります。情報に振り回されることを避けるには、まずは担当医や、がん相談支援センターなどに相談しましょう。インターネットを利用する場合、信頼できる研究機関・団体のホームページを利用します。

国立がん研究センター がん情報サービス

がん相談支援センターや
相談先・病院の情報はじめ、がんの症状や検査、
治療法など幅広い情報を発信しています。



<https://ganjoho.jp/public/index>

社会保険労務士による がんと就労電話相談

日本対がん協会の社会保険労務士による
無料電話相談。予約制で相談時間は40分。
予約はホームページから受け付けています。
がんと仕事について一緒に考えます。



https://www.jcancer.jp/consultation_and_support/work_support

がん相談ホットライン

治療や副作用

家族や
周囲とのこと

仕事や
お金のこと

例えばこんな時に
お電話ください

気持ちのこと

がんの
予防や検診

医療者との
かわり

日本対がん協会の無料電話相談。看護師、社会福祉士など
国家資格を持つ経験豊かな相談員が、相談を受け付けています。
がんに関する不安がある方なら誰でも利用できます。
気持ちに寄り添い、一緒に考えます。

日本対がん協会「がん相談ホットライン」

03-3541-7830

年末年始を除き毎日

午前10時～午後1時、午後3時～午後6時

日本対がん協会
ホームページ

